

ホップ・ステップ



第161号
2020年3月1日発行



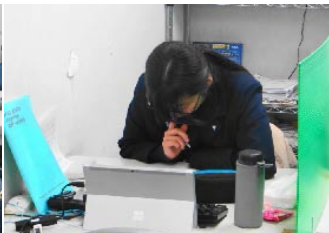
期末テストに向けて勉強する中学生と高校生

2/22 入試直前ゼミ

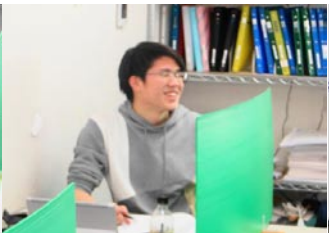
2/23 入試直前ゼミ最終日



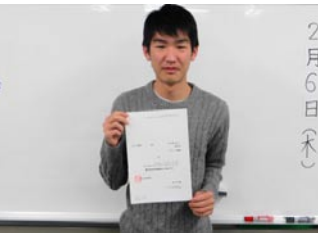
国立大学2次試験に向けての最後の勉強する小澤君、山上さん



4月まで春休み高専2年、余裕の村上君



北海道科学大学合格の富岡君



明輝高校のあり得ない校則!
先日、制服の上着を着るのを忘れていったT君の話です。明輝高校では決められた服装で行かなければ、「異装許可願」を書かなければ授業を受けることが出来ない。そして、さらに驚くのは**反省文**(原稿紙2枚)まで書かされるとのことでした。
上着のブレザーを忘れただけのことです。規則ではワイシャツの上にブレザーと決まっています。着ていたフード付きトレーナーを着ることが出来ず、寒い一日を過ごしたというのです。
もう一つ驚くと言いかあされることを話してくれました。それは授業中にトイレに行つて戻るときには、職員室に行つて「入室許可」の用紙を持って教室に行かないと入ることが出来ないというのです。



東京工科と科学大に合格の小澤君



北見看護大の京ちゃんが土産を



藤女子大の福士さんがバレンタインを



21期生で北電の森君が差し入れを



19期生でJR勤務の浦田君がい



18期生で大学卒業後、証券会社



10期生で大学卒業後、アルソック



6期生で三ツ輪ポータスに勤務する

つものように差し入れを持ってきてくれた。定期的に顔を見せてくれる!今年に入って2回目。

に就職しましたが2月で退社。3月から横浜の不動産会社へ転職する織田君。塾生に飲み物を!

クに就職、10年前に一流企業への転職。英語の勉強をするというので問題集をあげました。

岩淵君の見舞いに。胆石で胆のうを摘出する手術を受け、取った石を見せてくれた。大きさ1cmの緑色の石でした!

これはもう、異常というか狂っているとしか言いがありません。
AI時代、グローバル社会という大変な時代を生きていく若者に必要なのは発想力と行動力です。生徒たちの可能性を否定するバカげた校則です。こんな指導しかできない高校へ行く意味はあのでしょうか。無能な教育者は必要ないのです。
何度も言ってきましたが50年以上前から釧路高専には制服も校則もないのです。その中で自己責任を自覚し、それぞれが目標に向かって5年間勉強して専門知識を身に付ける。それが今日、企業からの圧倒的な評価に繋がっているのです。
過保護や過干渉にはプラスになることが何もありません。彼らの可能性を奪うだけです。

なぜ立命館が鶴居村について?札幌の私学と釧路の公立高校の取り組みの違い、これが格差です。
また村内にあるマンション空き室の中期滞在者向け宿泊施設としての活用や、集客イベントとしてレンタル用品を貸し出して行う冬のキャンプ、町名を生かし鶴への憧れが強い中国へのアピールなども挙げた。

鶴居村を担当したのは釧路出身の松岡耕平君をリーダーとする4人。
昨年10月20日から3日間、鶴居村を回った。提言では情報発信を高年齢層と若い人に分け、若者向けにはSNSの活用を求めた。村でもツイッターなどを利用しているが、発信力が弱いことを指摘。フォローワーが多く影響力のあるインフルエンサーに依頼するなどして、一方通行ではない効果的な情報発信を求めた。高齢者向けには安価な情報誌の活用を提案した。

立命館大学に進学する3年生を対象に実施しているコースの一つ。観光に焦点を当て、現地調査などを行い、地方創生のアイデアを観光からまとめる講座で18人が受講。鶴居村など「地方創生人材育成重点枠」の協定を締結している自治体の中から、2019年度は鶴居や宗谷管内幌延町、後志管内仁木町など5自治体を選定。発表会は2回に分けて実施した。



大石村長(右)らを前に鶴居村の観光について提言する松岡君らのグループ

【札幌】立命館慶祥高校(江別市)の観光開発講座座研究発表会が12日、札幌で行われた。講座で学ぶ生徒たちが、同校と協定を結ぶ鶴居村など3自治体について観光開発の観点から提言。若い人たち向けのインターネット交流サイト(SNS)を活用した情報発信や冬のキャンプなどのアイデアを発表。招かれて聴講した大石正行村長は「よく短期間でまとめていて、情報発信など参考になった」と評価した。(武田博)

昨日、問題となっている読解力不足は、過保護だと思われる生徒ほど学習の成果を発揮することが出来ません。それは決定的に自ら考え、判断し、行動する力が乏しいからなのです。
鶴居の観光発信へ提言
村と協定立命館慶祥高校が発表

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日
		休塾				◆修了式			休塾		春分の日 休塾	●小学校卒業式		★公立高校合格発表		休塾		●中学校卒業式				高校スタートダッシュ授業	休塾			◆富原・鳥取西期末テスト(6日)	◆景雲・鳥取期末テスト(9日)			●高校卒業式 休塾
																	全8回			週2~3日										
ストップ 過保護・過干渉!																	一日に一度はR-GROUPの確認をお願いします。							3月の予定						

公立高校の入試まであと3日になりました。大事な15の春の高校入試がコロナウイルス感染問題で大変な状況になっていますが、体調を整えて落ち着いて受験して下さい。試験終了後は塾で自己採点を行います。
学校の休みが5日以降どうなるのかが分りませんが、中学校の期末テストについても実施されるかどうか分かりません。大事な期末テストですから一応、テストに備えて家でしっかりと勉強しておくことです。
塾の対応は基本的に学校に合わせる予定ですが、感染予防の対策はしっかりしていますので場合によっては塾にきて勉強することも可能だと思っています。いずれにせよ状況が変わればR・GROUPに掲載します。毎日、確認をお願いします。

GIGAスクール構想

GIGAスクール構想とは、Society 5.0時代に生きる子供たちの未来を見据え、児童生徒向けの1人1台学習用端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する構想で、2019年12月13日に閣議決定された2019年度補正予算案に2318億円が盛り込まれました。GIGAスクール構想のGIGAとは通信速度で使うギガビットではなく、Global and Innovation Gateway for Allの略。誰一人取り残すことなく子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育ICT環境の実現に向けた施策です。平たく言うと児童生徒に1人1台の学習者用端末と、クラス全員が一度にアクセスしても利用できる通信環境を整備するものです。「2020年1人1台」を目指して進めてきた地方交付税での予算措置などが目に見える効果を上げてこないことを受け、ICT教育後進国脱却のため実施される緊急措置です。1人1台では、1台4万5000円限度に補助を実施し、2022年度までにすべての小中学校で3クラスに1クラス分の学習者用端末を整備します。ここで乗り遅れた自治体は、本当にガラパゴスと化し、そこに住む児童生徒の未来に大きな影響を及ぼすことが想像されます。



ICT教育ニュース 2020.1.14

「児童生徒1人1台コンピュータ」の実現を見据えた施策パッケージ

<ハード> ICT環境整備の抜本的充実

- 児童生徒1人1台コンピュータを実現（1台当たり4.5万円を補助。令和5年度までに、小中全学年で達成）
- 高速大容量の通信ネットワーク（令和2年度までに、全ての小・中・高校・特別支援学校等校内ネットワークを完成（1/2補助））
- 全国の自治体や学校が、より容易に、より効率的・効果的な調達ができるよう支援（モデル仕様書を提示。都道府県レベルでの共同調達の推進。調達説明会の開催）

誰一人取り残すことのない、個別最適化された学びの実現に向け、
来月1月、全国の首長・教育長等を対象とした「学校ICT活用フォーラム」を開催し、ハード・ソフト・指導体制一体で、全国各地での取組を加速化
民間企業等からの支援・協力による、ハード・ソフト・指導体制の更なる充実

<ソフト> デジタルならではの学びの充実

- デジタル教科書・教材など良質なデジタルコンテンツの活用を促進（本年度から順次全面実施となる新学習指導要領とセットで）
- 各教科等ごとに、ICTを効果的に活用した学習活動の例を提示（「教育の情報化に関する手引」を公表・周知）
- AIドリルなど先端技術を活用した実証を充実（本年度中に「先端技術活用ガイドライン」を策定）

<指導体制> 日常的にICTを活用できる体制

- (独)教職員支援機構による、各地域の指導者養成研修の実施（来月1月に実施）
- ICT活用教育アドバイザーによる、各都道府県での説明会・ワークショップの開催（本年度から全都道府県に配置）
- ICT支援員など、企業等の多様な外部人材の活用促進（令和4年度までに、ICT支援員は4校に1人程度配置）

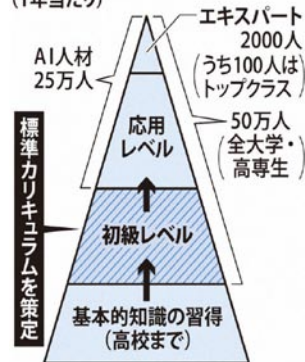
- 今後の主な検討課題
- ✓ 教師の在り方や果たすべき役割、指導体制の在り方、ICT活用指導力の向上方策（今年度中を目途に方向性）
 - ✓ 先端技術の活用等を踏まえた年間授業時数や標準的な授業時間等の在り方、学年を超えた学び（早急な検討）
 - ✓ デジタル教科書の今後の在り方（来年度中を目途に方向性）

金大・高専、AI教育 文科省など、素案公表へ 年50万人、データ演習

文系・理系を問わず全ての大学生に人工知能（AI）やビッグデータ活用の素養を身につけてもらおうと、文科科学省などが、大学と高等専門学校（高専）を対象とした初級レベルの標準カリキュラム（科目）を策定した。実社会での事例を題材に、データの活用法を教える。素案を近く公表し、意見公募後に普及を図る。【池田知広】

政府は2019年6月に「AI戦略」を決定。その柱として、年約50万人が卒業する大学生と高専生が初級レベルを習得し、そのうち約25万人をAIを用いて課題解決ができる「AI人材」として育成する目標を立てた。25年の実現を目指す。

政府「AI戦略」人材の育成目標（1年当たり）



標準カリキュラムは文科省と、東京大などから成る推進団体が策定した。素案では基本的な考え方として、「数理・データサイエンス・AI」をデジタル社会における「読み・書き・そろばん」と位置付けた。目標は、日常生活や仕事などの場でデータを使いこなす素養を身につけることとした。

その特徴は、統計数理などの厳密さを追求するのではなく、購買記録など実際のデータを使った演習を盛り込み、分かりやすく学べるようにする点だ。データ活用事例を紹介する動画を使った学習も取り入れる。全大学に一律に強いるのではなく、各校の特色や学生のレベルに合わせて選択されることを想定している。

策定に携わった横浜市立大の山中竹春教授（医療統計学）は「AIやデータサイエンスで世界がどのように変化しているのかを学び、『自分ごと』として捉えてほしい。これからの時代の『リベラルアーツ』（教養教育）とも言え、今後は全ての大学で教える体制をどう整えていくかが課題になる」と話す。

優れたAI人材は先進各国で争奪戦となっており、経済産業省は30年に最大12.4万人が不足すると試算している。文科省などは今回の初級レベルに続き、20年度にはAI人材を育成する応用レベルのカリキュラムを策定する方針だ。

毎日新聞 2020年2月9日

校則で「下着は白」指定10校…浜松市教委、各校校長に再検討求める

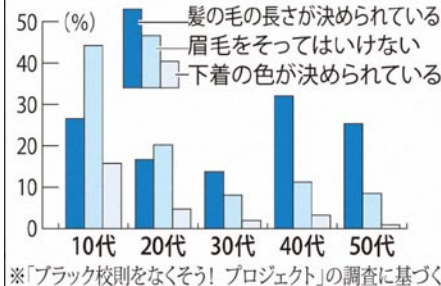
浜松市教委は24日、下着や靴下の色指定などの校則の見直しを促す教員研修会を市内で開いた。2019年12月に市民団体がまとめた「校則や制服を生徒本位で見直してほしい」という調査発表・要望などを背景に市教委が各校校長に再検討を求めた。

心と体の性が一致しないトランスジェンダー（TG）の人らで作る「浜松TG研究会」が19年に市立全中学校48校の校則を調べたところ、靴下の色を指定するのが44校、下着の色を白などに指定するのが10校あった。

この日は全市立小中学校146校の生徒指導主事・主任が参加。校則について常業大の太田正義准教授（教育心理学）の講演を聞いたり、グループワークを行ったりした。教員からは「靴下の色は白でなければいけないのか」「髪形は男女の区別をつける必要があるのか」などの意見が出たという。今後各校は校則見直しへ向け、アンケートなどで生徒や保護者の意見を聞き、校長が見直しを決定する。

【福沢光一】毎日新聞 2020.1.25

中学時代に体験した校則



教育関係者ら有志でつくる「ブラック校則をなくそう！プロジェクト」が15歳以上の10～50代の男女を対象に2018年に実施した中学時代の校則調査

ブラック校則、もうやめよう

地毛が茶髪の子どもに黒染めを強要、通学時の水飲み禁止——。こうした不合理な「ブラック校則」を見直そうという動きが強まっている。8月にはブラック校則の実態調査を求める6万334筆の署名が文部科学省に提出された。校則を一般に公開することで見直しを促す自治体もある。

【水戸健一、成田有佳】

「調査を」署名6万筆

文科省に署名を提出したのは教育関係者ら有志でつくる「ブラック校則をなくそう！プロジェクト」。15歳以上の10～50代の男女を対象に2018年に実施した調査では、中学生のときに髪の毛の長さに関するルールを体験したのは50代が25%、10代が27%と年代による差がほとんどなかったが、「眉毛をそってはいけない」「下着の色が決められている」は10代が圧倒的に高く、学校の管理強化の傾向がうかがえるという。プロジェクトに関わる評論家の荻上チキさんは「必要な合理的なルールもあるが、学校の管理のしやすさを優先するようなルールは不要だ」と指摘する。

大阪府では、ある府立高が生まれつき茶色い頭髪の子供に校則を示し、黒く染めるよう強要した問題を受け、府教委が18年春、府立高に対し、校則の内容を、校則がない場合はその旨を、学校のホームページで公開することを求めた。18年7月までに全校が公開した。

東京都世田谷区は今秋から区立中学校の校則を学校のホームページで公開する。昨年、区議会で桃野芳文議員が一部の校則を問題視したことがきっかけだった。「肌着、下着は白」「防寒着として、セーターは許可、カーディガンは禁止」「給食中は牛乳をしっかりと飲む」——。保坂展人区長は記者会見で「校則は校長の考え方だけにゆだねるのではなく、オープンな情報開示の対象として公開し、公の議論、視線のもとで必要に応じ見直していくべきだ」と強調した。

中高の教員免許を持ち、教育問題に詳しい真下麻里子弁護士は「社会科や総合的な学習の時間で扱う素材として校則を取り上げるアイデアもある。校則変更の手続きを検討することは、どのような手順でみんなの意見を聞けば、納得できる結論を出せるかを考えることと同じだ」と語る。

毎日新聞 2019.10.24

STUDY TOUR 研修旅行

研修旅行渡航先

- 中学1年 北海道研修(3日間)
- 中学2年 京都研修(4日間)
- 中学3年 ニュージーランド研修(20日間)
- 高校2年 海外研修(8日間)

海外研修コースは年度によって異なり、本誌では2018年度の情報を掲載。

AI時代にふさわしい教育は、公立の学校でも校長の裁量で変えることができるし、立命館のような私学では、多様な社会に対応できるカリキュラムを組んでいる。